

日本の自動車部品メーカー、インディアナ州ワシントン市に米国初の拠点を開設

レイディアス・インディアナ

Kara Kavensky

訳 Mariko Lassiter

“開通すればみんな集まる”

これは、I-69の効果を実感しているインディアナ州南西部の多くの郡に響き渡るフレーズようです。

インディアナ州の首都から南西の地域を結んでいる、新たに開通したI-69州間高速道路沿線の多くの町は、まさに戦略的な経済発展計画の成果を得ています。ワシントンはその多くの町のうちの一つに当たります。62番出口に位置し、目標に定めたインフラへの投資は利益を生み続けています。62番出口の交差点に、水、下水道、電気設備を拡張したこれらの投資は、この地域の発展にとって極めて重要であることも証明されています。またこのインフラには、CSX鉄道の側線と貨物の積み下ろしを行うプラットフォームも含まれます。

州間高速道路の開通およびインフラの改善のおかげで、インディアナ州ワシントン市は製造業における労働力の生産性が高い、と評判を高めることとなりました。そしてこれらの要因は、日本を本拠地とするティア2自動車部品メーカー、M&Cテックの理想的な拠点としてワシントンを際立たせました。

M&Cテックは、350年もの歴史がある森六ケミカルズ株式会社と、70年続く中部化学株式会社の合併事業です。森六ケミカルズ株式会社と中部化学株式会社の重役らは、それぞれの兼ね備えた技能と技術を結集することで一致しました。M&Cテックの代表取締役伊藤康裕氏は、トヨタ、ゼネラルモーターズ、スバルを含むサプライヤーの取引先に、ごく接近した米国内での場所を見つけることを望んでいました。インディアナ州のワシントンは、はじめてのM&Cテックの拠点です。

「ワシントンは立地条件、アクセス、インセンティブ、雇用環境、治安の総合的に最高の場所でした」と伊藤社長は言います。「また、主要の取引先から3時間以内の場所に拠点を構えたいと考えていました。I-69の開通、地域のホスピタリティ、地元での人材採用と治安の良さは私たちの決定に影響を与えました」と、ワシントンに拠点を開設するに至った理由を述べました。

デイブース群経済開発法人(DCEDC)は、郡内に新たに設立されたオフィスパークにビジネスを誘致するために、I-69に沿って4万平方フィート(3,716,122平方メートル)のオフィスビルを建設しました。その後、DCEDC事務局長のロン・アーノルド氏がオフィスビルでM&Cテックの代表と会談し、その時たまたま日本へ出張中だったジョー・ウェルマン市長に連絡をとりました。

「すべてがどう連携したのかは驚くべきことです」と、森六ケミカルズ株式会社本部への訪問に対応するために、スケジュールを再調整したウェルマン市長はその時のことを振り返ります。さらに「日本のビジネスマンと知り合うことは素晴らしいことですし、彼らを毎週目にするのはなくとも、日本と同じようにここ(ワシントン)で日本人と友人になったことも素晴らしいことです」と話しました。

M&Cテックは、I-69インターチェンジのオフィスビルから通りを挟んだ場所に建物を建設しました。M&Cテックに通じる通りは、企業の成長に合わせ、テクノロジードライブと名づけられました。

M&Cテックの伊藤社長は、彼とM&Cテックの関係者がワシントン市長、デイブース郡当局者、インディアナ州の当局者および地域住民から受け取った温かい歓迎に満足しており、「(2年間ここにいた後でも)市長と群に協力していただいている、とても感謝しています。また地元住民も親切です」と話しています。

「80%以上の従業員は、当社の工場から20分以内に住んでいます」と伊藤社長は言います。また「当社の従業員定着率は、他社と比べると安定しています。私たちは今後も成長を続けながらビジネスを拡大し、より多くの人を雇用したいと考えています」と未来の抱負について語りました。

15人の従業員から始まり、M&Cテックは4人の事務職員と38人の製造業職員、計42人の従業員を抱える企業に成長しました。また2019年4月には交代制勤務の2直を開始して

います。今後5年以内に、M&Cテックはインディアナ州ワシントン市での事業をさらに倍増したいと考えています。

「様々なコネクションが、M&Cテックがワシントンに拠点を開設するという確約を円滑に進め、成功させるための手助けとなりました」とDCEDCの専務取締役、ブライアント・ニエホフ氏は言います。また「複数の組織と私たち(DCEDC)との関係性、M&Cテックの主要メーカーへの近さ、およびワシントン市のインフラは、持続的な成長の機会があるということを示しています」と説明しました。

レイディアス・インディアナは、ワシントン市がM&Cテックの受け入れ準備をするための支援に参加することができました。市は、レイディアス・インディアナの地域インパクト基金から助成金を受け、M&Cテックの現場改善のための施設建設の補助金として使用しました。

「地図を見てみると、インディアナ州全体にわたって日本企業の拠点があることは明らかですが、そのほとんどが幹線道路に沿って位置しており、州南部にはほとんどないことが分かります」とウェルマン市長は述べ、デイビーズ群に隣接する他の郡にも目標とする取り組みの利益が得られることを指摘しました。さらに「私たちの地域の人の中には、I-69州間高速道路沿線で30年間働いたことがある人もいます。インディアナ州南西部の地方の発展と雇用の成長のために、I-69に沿って成功が続いているのを見るのは刺激的です」と市長は話しています。

M&Cテックは、デイビーズ郡、またインディアナ州南部におけるI-69の新しい区分に沿って拠点を置いた最初の日本企業です。将来のさらなる発展の触発物となることを期待して、ワシントン市は、I-69に沿った200エーカー(809371.284平方メートル)の未開発農地を地域のための長期計画の一部として併合しました。